

令和5年度 林業普及週間現地情報 (2/12～2/18)

森林管理課

タイワンオガタマノキの生育調査

2月14日(水)

令和6年2月14日(水)、西表熱帯林育種技術園の千吉良氏、桑辺氏、石垣市役所の桃原氏とともに石垣市有林内に自生しているタイワンオガタマノキの生育調査を行った。

西表熱帯林育種技術園では、タイワンオガタマノキの挿し木及び実生繁殖の試験を行ってきたが、高い位置に枝や種を付ける自生木から採取できる挿し穂や種子の数が限られることがわかり、果樹園のように低い位置で着果させて大量の種子を容易に生産することを目標として、接ぎ木試験を開始している。

今回は接ぎ木試験用の穂木を採取できそうな個体21本の胸高直径、樹高及び枝下までの高さを調査した。

タイワンオガタマノキは、県内では八重山地域にのみ自生しており、古くから建築材や家具材として利用されてきたが、大木の多くは伐採され希少となっている。冬芽や若枝が褐色の毛に覆われているのが特徴で、木目は黄金色の縞模様をしており非常に高級感がある。

また、沖縄県では造林樹種に指定されており、用材としての需要も見込まれることから、引き続き西表熱帯林育種技術園と連携し、苗木生産方法を確立していきたい。



生育調査の様子



タイワンオガタマノキの萌芽枝